

創造・誇り・愛！ 輝く七中 煌めけ生徒！！



# とちのき

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511 FAX (042) 531-6103

立川市立立川第七中学校

校長 水越 伸朗

学校だより

第4号

令和6年7月19日



七中 HP URL

## さりげない思いやり

校長 水越 伸朗

71日間の1学期が終わります。この1学期、1年生は先輩たちを見習い、2年生は後輩の良き手本になろうと、3年生は最高学年として学校生活を送ってきました。特に5月に行われた運動会では、それぞれの学年の良さが発揮され、とても良い行事になりました。全力で一生懸命に取り組む姿から、あらためて七中生の素晴らしさと逞しさを感じることができました。

このように、子どもたちが充実した学校生活を送れるのも、ご家庭においてお子様を励まし、応援していただいているからだと思います。日頃からの、保護者の皆様のご支援、ご理解に感謝いたします。

明日からは夏休みとなります。ご家庭で過ごす時間が長くなります。中学校卒業後の進路をはじめ、将来の夢、職業等について、お子様と話していただくと、これからの学校生活への意欲も高まると思います。七中生全員が、有意義な夏休みを過ごすことを願っています。

さて、本日の終業式では、「さりげない思いやり」について話しました。その一部を紹介します。

～終業式講話より抜粋～

今日は実際に私が体験した、「さりげない思いやり」についてお話します。15、6年以上前の話です。当時、最寄り駅から学校までバスを使って通勤していました。ある日、仕事を終えて帰るためにバスに乗った時のことです。帰宅時間帯のため、車内は結構人が多く、立っている人も見られました。その中に、大きな遠征バッグを床に置いて立っている、野球部と思われる高校生が何人かいました。私は、「お客さんが降りるとき、邪魔にならないかなあ」と心配になりました。バス停が近づき、降りの方がブザーを鳴らしました。バス停に止まり、その方が車内後方から、前方の降車扉に向かって歩いてきます。その時です。高校生たちは、自分のカバンをさっと端によけ、お客さんが通れるスペースを空けたのです。誰かが注意したわけでもありません。高校生たちが自分の意志で行動したことでした。高校生たちの行動は、当たり前のことかもしれませんが、私は、とても爽やかに感じました。当然、私が降りる時も、カバンをよけ、通路を確保してくれました。私は、このような行動こそが「思いやり」だと思いました。皆さんにも、このような行動ができる人になってもらいたいと思います。

明日から夏休みです。来週からはパリオリンピック、パラリンピックが始まります。楽しみにしている人もたくさんいることでしょう。私も、とても楽しみにしています。開会式では、立川市内の立飛ホールディングスに所属している、フェンシングの江村美咲選手が旗手を務めます。競技も含め応援しようと思っています。オリンピック、パラリンピックのテレビ観戦も含め、様々な計画のある人もいることでしょう。宿題や、部活動、習い事など、やらなければならないこともたくさんあるとは思いますが、健康・安全には十分注意して、充実した夏休みを送ってください。